船小ハイブリッドパワー

― 学校と家庭を結ぶ ―

校長室だより　No.22

“やさしく かしこく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和4年4月11日 文責:安生昌弘

◆ “あいさつ”に表れたハイブリッドパワー

4 月 6 日，着任式でのことです。ある転入職員の子どもたちへの挨拶が，こんな言葉から始まりました。

「**先生は今朝，とても嬉しいことがありました。全然知らない私に船引小の子どもたちが“おはようございます”とあいさつをしてくれました。**」

去年の 4 月，私を始めとして転入してきた職員が感じた「**自分からあいさつしない子，挨拶を返せない子が結構いるなあ。**」ということから比べると大きな進歩です。これは，先生達の生活指導はもちろんですが，高学年の委員会活動での“あいさつ運動”，PTA 役員さんの朝の“あいさつ運動”の成果だと思います。

そして，学校からは見えにくいのですが，ご家庭でも家族で挨拶を交わしたり，子どもさんに挨拶を奨励したりして下さっているに違いないと感じました。学校だけでの指導では挨拶する習慣がなかなか根付かないことを今までの経験で分かっておりますので…。家庭と学校とが手を携えてハイブリッドパワーを発揮すると，こんなに嬉しいことがあるのだなと実感した令和 4 年度初日の朝でした。

◆ 通学班登校の姿から見えた“やさしさ”

船引小学校では，かなり前から通学班登校を行っています。私が小学生の頃は既に通学班がありましたので，少なくても 50 年間は続いています。全国的に見ると通学班登下校をしている学校は，およそ半数位のようです。近隣にも個別登校の学校はいくつかあります。

元々は交通安全のために始められたシステムだと思いますが，最近は通学班を巡るトラブルのために廃止する学校もあると聞きます。問題点は「**①子どもが隊列を組むので車がハンドル操作を誤った際に被害が多数の児童に及ぶ。②安全確認を上級生に頼るので下級生の交通安全意識が育ちにくい。③下級生の安全について責任を負ったり，集合時刻に遅れた下級生の確認をしたり等，班長の負担が大きい。④保護者が欠席連絡を学校だけでなく班長にもするので，保護者の負担が大きい。**」などです。低学年の保護者としては，とても助かる通学班ですが，問題点もあるのです。登校の方法は学校が警察や交通安全協会と相談して決めることになっています。警察は通学班を交通安全のために是非続けて欲しいという意向ですので，関係機関と連携を図り安全指導を徹底したいと考えています。

入学式翌日の朝，6 年生に手をつながれて頑張って歩いてきた 1 年生の姿がありました。小さな体ですから学校までは遠いなあと感じたことでしょう。でも，6 年生の優しさに包まれて頑張れたのでしょう。二人の 6 年生に両手をつながれた 1 年生もいました。年齢の違う子どもたちの交流が少ない現在，通学班が大切なふれあいの機会や人間関係を学ぶ場になっています。子ども同士が共に学び合う教育の場にもなっているのです。

学校と家庭がタッグを組み，一つ（ハイブリッド）になって2倍以上の力（パワー）で効果的に子どもたちを育てたいと願い，校長室だよりを『**船小ハイブリッドパワー**』と名付けました。